

たたき台の賛成案集計結果

案 1	0 人	
案 2	0 人	
案 3	1 人	
案 4	12 人	
案 1～4 以外	4 人	案 3 の変型※ 2 人
		案 3 案 4 の両方 2 人

※案 3 の変型 a…七郷小を志賀小に統合し、菅谷小は菅谷中を使用
菅谷中を玉ノ岡中に統合する。(小 2 中 1)

※案 3 の変型 b…3 つの小学校を菅谷小に統合する。
菅谷中を玉ノ岡中に統合する。(小 1 中 1)

【賛成の理由…案 3】

- ・一番効率的だと思うため案 3 を選びました。スクールバスはいずれの案も必要となるが、バスを使って通学する児童数が少なくて済むという点や小中の新校舎が近い距離にある為、教員が移動する際も業間休みでの移動が可能になるのではないかと、という点でも施設一体型小中一貫校にした場合のメリットも兼ねていると思います。

【賛成の理由…案 4】

- ・現実的に考えて、案 4 以外は難しいと思う。少子化は不可避であり、1 校にまともでも将来的に大規模になりすぎる可能性は考えにくい。現状の各学校の老朽化を考えると、子ども達の安全確保が最優先である。限られた予算のなかで新校設立のためにコストがかかり、現存の各校にメンテナンス、補修費用をかけることが難しいことも理解できる。それならば、一刻も早く安全な環境に移れるように、以前のプランをできる限り活かし迅速に進めるべきである。施設面だけでなく、クラス替えが出来ない環境は子ども達にとって、非常に危険であるとも思う。保護者や地域住民への説明と並行して計画を進めていくべきだと思う。
- ・再編案を検討する中で一番多くのメリットを感じ、実現する際にもスムーズに行えると思ったからです。

【資料 3】

- ・効率、コスト、教育効果その他全ての面で案 4 しか選択肢はない。考える余地なし。

- ・工事期間中や中学校の先行統合を考えても、案 4 が 1 番シンプルで現実的だと思う。

また少子化によって学校の統廃合が進んでいる事を踏まえると、小中一貫校を設置する事で学校が分散しているより集約している方が予算を抑えられるのではないかと思う。ただ、一貫校になると 9 年間顔ぶれが変わりません。いじめや息苦しい環境になってしまった場合を考えると、親としては不安です。

- ・現実的だから。

- ・前回の会議の話し合いの中で、案 1 案 2 については実現が難しいと感じた。案 3 案 4 で迷うところはあるが、以下の理由で案 4 に賛成したい。

<案 3>

- 菅小・志賀小が先行統合し、あとから少人数の七小が入ってくるのは、子どもの精神的負担を考えると望ましくないという意見があったが、同感である。統合するのであれば最初から 3 校が同時に統合した方が、友達作りの面において環境に慣れるという面においても子ども達の精神的負担も少ないと思う。

- 菅小が建て替え又は長寿命化の間、志賀小に先行統合することは菅小の人数的に難しいと思う。仮に菅小の子ども達を仮設校舎で過ごしてもらうとなると、グラウンドが使用できなくなり授業に影響が出てくる。また長寿命化する場合は、40 年以上経つ老朽化した校舎を工事するのにどのくらいかかるか調査してみないとわからないとなると、子ども達にも長期間我慢させることになりかねず、現実的でない。

<案 4>

- 菅中を玉中に先行統合し、校舎を建て替える。菅小を大規模改修して、志賀小、七小と先行統合をする。施設一体型校舎ができたタイミングで全員が新校舎へ移動する。この方法が一番スムーズで且つ子ども達や教職員にも負担が少ないのかなと思った。

この答申が早急に決定しても、その後の町民説明や最終決定するまでに数年かかることを考えると、菅小は大規模改修して数年は持ちこたえられるようにしないとだと思う。しかし、どのくらいの期間で改修が完了するのか（夏休み期間中だけで終わるのか）改修中に授業が通常通り行えるのか（騒音など）はよく検討する必要があると思う。

【資料 3】

○子どもの人数が多くなれば教員数、部活数もある程度確保でき、充実した学校生活が送れると思う。

○施設一体型とすることで、中学校の先生が小学生を教えるというような柔軟な対応ができるようになる。

○新校舎を DID 地区である菅谷小の場所に建てれば、スクールバス等で移送する子どもの人数も最小限に抑えられる。

小川町ではスクールバスの管理費が年間 1200 万円かかると議会だよりに掲載されていた。また、各家庭に毎月 1000 円の自己負担があるとのことだが、送迎児童が増える分バスの台数や移送回数も増え、管理費もかかってくる。管理費が膨らめば家庭からの自己負担も出てきてしまう可能性が高い。また、移送回数が増えれば登校時間にもばらつきが出てしまうことが予想される。

- ・移行に際し、ロスなく効率的に行いやすい。
- ・現実的に予算面を考慮するとこの案しかない。
- ・過去の諮問検討委員会でたたき台はほぼ出来ていると思われるので、作業がスピーディに行いやすいのではないか。また以前の方々の意見もリスペクトすべきだと思う。
- ・案 4 以外に考えられません。最初の会では 7 対 3 で案 3 もいいなーと思いましたが、この「いいなー」状態です。先日、広報にも 4 つの案が掲載されてましたが、それを見た町民区民は案 1～3 も「いいなー」と思う人も多いかもしれません。ただ、その 1 町民 1 区民の方が私のように今までの会に参加していたら、たぶん案 1～3 は考えられないと思います。大多数の人が。。
「七小を分校に残してほしいなー」も実にこの「いいなー」なのです。登校下校の通学の問題さえクリアされたら、大多数の町民区民も「よし、いいでしょう」と思うと思います。先日の会では 10 対 0 でと発言しましたが、今は 20 対 10 で「案 4」に賛成です。とにかくスピード感を持って案 4 で進めてほしいと思います。七郷校区を代表しての意見です。
- ・案 4 を選んだ理由は、財政面・災害時等を考えると有利なこと、またスクールバス運行時、他の案では複数の経路が必要となるが菅谷中一貫校では、一方面の経路で可能（北方面のみ）であるため選びました。
- ・一番リスクが少ないと感じるのです。（前の会議から様々議論してきて）

【資料 3】

- ・すべての小中学校の築年数が 35 年を超えており、長寿命化の大規模改修を 20 年前後で行っていない嵐山町の施設は、スピーディに行う必要がある。再編と施設は別に考えたいが、少子化が予想される 10～20 年前にこの問題を議論するなら、色々な方法や話し合いを計画的に進めていけたと思うが、現在を考えると案 4 が良いと思う。
- ・会議でも述べさせていただいている通り
 - ①少子化が加速する町における適正な規模と考える（経済面、マンパワー含め）。
 - ②小さな町の中では極力同水準の環境で教育が受けられることが望ましい。
 - ③仮設校舎等の建て替えに伴う負担も最小限としたい。

【賛成の理由…案 3 の変型 a】

- ・案 4 は義務教育に経済合理性のみが優先されている。小中一貫校が教育の最先端とする考え方に疑問を持っている。急速な高齢化の進展は財源不足が起こる不安。
 - ①＜小学校課程＞知識や学力の基礎・人間のベースを作る時。教師と保護者が協力しあって効果があがる。学校と家庭がより近い所にあることが望まれる。
 - ②＜中学校課程＞知識や学力、体力もあがってくる。個々が切磋琢磨する時。部活動が充実できる環境作りは必要。「緑と清流のまち」「杉山城址」に近い玉ノ岡は中学校教育に最適の場所。玉ノ岡中学校施設の長寿命化で活用可能である。
 - ③遠距離通学（スクールバス利用）の地域が最小限になる。ただし中学校は部活もあり、自転車通学となる。

【賛成の理由…案 3 の変型 b】

- ・手順のシンプルさと費用負担（工事に關する町の実質負担額、学校管理費、スクールバス費 50 年分）が最安値。ただ玉中下の市野川沿いの道が 1000 年に一度の水害で 3 日間浸水すると「浸水ナビ」にあり。

【賛成の理由…案 3 案 4 両方】

- ・案 3 と案 4 のどちらか決めかねる為、どちらにも○印をつけさせていただきました。
- ＜案 3＞学びの場において小学校・中学校ではそれぞれ実施することも異なる為、小学校と中学校は分けて考えた方がよい。また菅谷小・中の場所で

あれば近いため、分けたとしても様々な対応ができると思う。

＜案 4＞小中一貫校にすることにより、先生方の行き来がスムーズに出来、上記同様に様々な対応ができると思う。

- ・現状では案 3、案 4 のどちらとも言えず悩んでいる。理由としては小学生と中学生のエリアを分けたいのが私の中では第一条件である為です。案 3 では小中のエリア分けが実現できる点は良いと思うのですが、施設の建て替えや長期メンテナンス費用を考慮すると金額が大きいかさむのではないかという点が気になっています。案 4 では反対に費用面では良いのですが、小中学生が混在する点が気になっています。

なぜ混在する事を気にしているかというと私なりに子ども達の安全面を考慮しているからです。自分の経験上ですが、基本的に年齢が低い場合には高学年からの影響を受けると思います。どちらかと言うと良い影響よりも悪い影響の方が多いのではないかと考えています。中学生を悪者にするわけではありませんが、先日も三重県で中学生による同級生への切りつけ事件がありましたし、昨年も愛知県で中学生による同級生の殺人事件が起きている。そのような場面に小学生が巻き込まれたり、目撃してしまった場合の心的リスク回避のためにも、エリア分けが必要なのではないかと考えます。

また、中学生による小学生へのいじめ等も起こるのではないかと不安です。以前の会議で何方かが小中一貫にすれば中学生は小学生の見本として学校生活を送ってくれるのではとおっしゃっていましたが、私はその真逆な考えで、良いことよりも悪いことが起きなければと不安の方が大きいです。物理的に棲み分けが出来て、これらの不安材料が取り除けるのであれば案 4 が一番良いのではないかと思います。本当に大切なのはコストよりも子ども達の安全や気持ちだと思うので、そこを第一に考えるべきだと思います。よって案 3 案 4 をもう少し煮詰めてからでないとはっきり賛成できないのが現状です。

【再編の際、特に実現したいこと】

- ・スクールバス通学の利用方法の明確化
- ・学童保育については現行の学童保育を継続させることを含め保護者の選択
- ・答申書には少数意見の記述をする
- ・小中一貫校は町外に対しても魅力をアピールするチャンスになる。ただし、授業時間や試験期間などの問題もあるため、適度な交流ももちつつ施設的には渡り廊下でつながっているくらいがいいのではないか。小規模校・少人数学級を支持する意見も多いため、文科省の規定にとらわれず、少人数学級を実現でき

るとアピールポイントにもなり、七郷のギャップや不安の解消にもなるのではないか。個人的には、中学校に文科系の部活を増やしてほしいと思う。大切なのは学校の規模だけではなく、質である。今ある5校の良いところを合わせ、質の良い学校を作ってほしいと願う。またせっかく新しく建てるのだから、今度こそ長く使えるように、定期的にメンテナンスをしっかりと行い、大切に使用してほしい。

- ・今までの再編審議会での意見にもありましたが、今回のプロジェクトが目玉となり人口増加につながる様な新校が創成されることを望みます。その為には嵐山町民全ての意見・知恵が反映されるべきだと思いますので、今後の進行においてもみんなで考え、創り上げていけたらと思います。特に実現していただきたい事は、嵐山町独自の少人数学級の設定など「新しい時代に合わせた改革」です。

それと本審議会の役割と権限について以前「学校の数と位置について一定の方向性を示す事」と言われましたが、その方向性が示された後こそ大事なのだと思っています。もしこの審議会の役割が方向性の提示までとするなら、令和5年3月までの任期を待たずに答申を出し、その後の新校設立に向けての新たな審議会を設立する様に望んでおります。

- ・何度もくり返しお話していますが、一年でも早い実現を願っています。人数の多い活気のある雰囲気の中で安心して学べる校舎で学校生活を送らせてあげたいです。
- ・部活動に「太鼓部」を創設すべき。現在嵐山町では太鼓の活動が他の地域よりも活性化しています。にもかかわらず、小学生が終わると中学生は太鼓に集中する機会を奪われている状況です。これは非常に問題です。部活動として「太鼓部」を創設することで部活動としての太鼓活動が可能となります。嵐山町が行っている活動でおそらく唯一世界で戦えるのが太鼓と言っても過言ではないと思える状況からすると、太鼓部創設は必須です。そもそも高校の部活動はOBが練習を見に来るというのは常識ですが、なぜ中学校ではそれが無いのか。例えば野球にせよサッカーにせよ、中学高校と続けた場合でも高校の練習を見に行ってしまう。これを中学校に呼び寄せたい。高校生になり、大人になり、嵐山町から外に出ていったOBを町に呼び戻すためにも「中学校の部活動にOBを呼んで教えるを乞う」というシステムを導入するきっかけにもなります。太鼓部は他の学校にはないのでOBとしては高校の部活に行くという選択肢はなく、中学校の部活動を教えていくという形をとるしかないのです。必然、

【資料 3】

中学校に戻ってきます。そこでは新たにOB間の連携や出会いも演出できますし、大人になってもこの町で太鼓を続ける動機にもなります。良いことしかありません。また近年、部活動の顧問の先生の時間的費用的な負担が問題となっています。太鼓部となると、おそらく先生の中に指導できる技術をもった方はいらっしゃらないので、太鼓の活動をしている外部に依頼することになります。顧問の先生はあくまで名目的な顧問となり、実際の負担を軽減できます。部活動の指導を外部の専門家に仰ぐという流れは今後促進されるはずですので、その潮流にも一致します。外部に依頼するコスト面等の問題もあろうかと思いますが、そのあたりは要検討ですけれども。

- ・送迎のバスの問題は必ず解決すべきである。
- ・バリアフリー化、トイレの洋式化、長寿命化。
子ども達が安心・安全に通うことのできる学校を作ってほしい。中学生の制服もスカートでもズボンでも選択できる物や、まわりから嵐山にある中学校の制服がかわいいから行きたいと思ってもらえる様な素敵な学校を考えてほしい。
何にせよ、スピード重視で!!
- ・小中のエリア分け
- ・施設の定期メンテナンス計画
- ・トイレの完全洋式化
- ・年に何回かの小中交流会
- ・中学校にダンス部設立
- ・バス通学は直線距離ではなく徒歩で30分以上からの地域希望
- ・部活動の充実。サッカー部と卓球部、男子バドミントン部は作ってあげたい。
- ・国際交流しやすい学校。色々な表記に英語と日本語を記すとか。
- ・新しい学校で先進的な教育。インターネット設備、プログラミング（そういう部活があっても面白い）。嵐山町の小中学校に人が集まるような魅力を！
- ・周辺の道路整備。安全な通学路確保。ガードレール等も。
- ・中学校は自転車通学にして先行統合。
- ・通学のバスに関しては、遅刻など実際あり得る事態を十分考慮してほしい。
- ・地元住民の足としてのインフラ整備も同一線上に考慮できないだろうか。
- ・通学路の歩道整備

- ・スクールバスの無料化

- ・中学校は部活もあるので、町体育協会等とタイアップして地域指導員の導入などスポーツ省（文科省）から出されている取り組みを進めてほしいです。
- ・特支学級に通学する児童生徒も多いので、専門的な教職員を増加させること。
- ・制服や校則等の準備委員会・検討委員会の立ち上げ。
- ・男子トイレの個室化。
- ・保健室にシャワー室の設置。
- ・玄関ホールや地域会議室（仮称）に、現在の小中学校の校旗（七郷中の校旗は玉ノ岡中に保管してあります）や校章、校歌など掲示できるスペースをとり、保護者、地域の学校をアピールできれば。。。 （卒業生の気持ち）
- ・スクールカラーの設置 校旗の色、部活ユニフォームの色などスクールカラーがあれば、同じ旗のもと教育活動が進められると考える。

- ・可能であれば、菅小に修繕（改修？）を入れ、小学校の先行統合もできないか。バスも先行開始。
- ・バスを通学以外でも循環バスとして地域に開放（通学時間は生徒専用 or 優先）
- ・地域の手も借りながら放課後教室を開催（学童以外の子も含めた居場所づくり）。
- ・跡地活用（子育て支援施設等）

- ・「保護者アンケート」に寄せられた声にできるだけ応えたい。
 - 登下校：スクールバス問題と徒歩・自転車通学の安全確保。
 - 部活動：合同部活や中学校統合による当面の改善策（廃校になった学校の施設は継続利用できるか？）と、学校と地域が一緒になって子ども達を育てていく新たな仕組みづくり。
 - 少子化の現実とコロナの時代に学校が求められるもの、大規模一貫校の研究と少人数学級。
 - 廃校後の利活用のイメージを膨らませ、（鎌形小廃校時のように）地域の理解と要望を取り入れながら次世代に引き継いでいけるよう町全体で話し合いを進めたい。